

Simplex

TECHNOLOGY, INC.

If you are looking for new horizons in this world, we are your ideal partner.

【 株式会社シンプレクス・テクノロジー 会社概要 】 - 東証 2 部 4340

設立	1997 年 9 月
本社	東京都中央区日本橋 1 - 4 - 1 日本橋一丁目ビルディング 15F
代表取締役社長	金子 英樹 (40 歳)
会社コード	東証 2 部 4340 (2004 年 5 月 10 日東証上場、2002 年 2 月 8 日 JQ 上場)
事業内容	金融機関向けシステム開発
主力開発	JAVA 言語によるオブジェクト指向システムの開発
主力製品	・ディーリングシステム (デリバティブ、債券、株式、為替) ・CRM (Customer Relationship Management) システム ・コールセンターシステム (= @SCENE) ・WEB システム (インターネット証券取引システム = 例 ; 日興コーディアル証券 外為倶楽部)
主要取引先	大手証券 2 社を含む国内証券会社 16 社、外資系証券会社 7 社、 都市銀行・信託銀行 8 社、地方銀行等金融機関 3 社、その他(金融以外)
資本金	2.6 億円 (2004 年 3 月期実績)
連結売上高	26.3 億円 (2004 年 3 月期実績)
連結経常利益	5.5 億円 (2004 年 3 月期実績)
従業員数	91 名 (2004 年 3 月末現在)
ホームページ	http://www.simplex-tech.co.jp/
お問い合わせ先	ir@simplex-tech.co.jp
会社概要	

シンプレクス・テクノロジーは、外資系金融機関出身のメンバーを中心に1997 年秋に設立された金融ハイテクベンチャーです。主要な業務は、大手金融機関の収益のコアとなる業務 (例 ; ディーリング (デリバティブ、債券など)、CRM など) のシステム開発です。シンプレクスでは、受託開発でありながらシステムの著作権を留保することを可能とするビジネスモデルを実現しています。この結果、蓄積される共通コンポーネントを「シンプレクス・ライブラリー」として有効活用し、開発の効率化を図ることで、システム開発会社の枠組みを超えた競争優位性を保っています。

競争優位

シンプレクス・テクノロジーは、業務領域を金融業界のシステム開発に特化した、金融工学、金融業務知識、最先端 IT 技術を全て兼ね備える、本格的な金融ハイテク・ベンチャーです。

弊社の特徴は、

- (1) 「金融フロンティア領域」におけるシステム開発に特化
- (2) 著作権を保持した「シンプレクス・ライブラリーを活用した」ビジネスモデルにあります。

「金融フロンティア領域」におけるシステム開発に特化

金融機関のIT投資

金融機関のIT投資は、その内容に応じて以下の2つに大別されます。

a) デーリングシステムに代表される収益最大化のためのIT投資（フロント領域）

具体例としては；

- ・ 債券やデリバティブといった金融商品を取引するためのデーリングシステム
- ・ 金融商品開発システム
- ・ CRMシステム（戦略的顧客情報管理システム）
- ・ 株式 / 為替などのインターネット取引システム

b) 勘定系（会計など）システムに代表される効率化による費用削減のためのIT投資（バック領域）

具体例としては；

- ・ 会計処理（勘定系）システム
- ・ ATMシステム
- ・ 振込 / 決済自動化システム

当社は、フロント領域（上記 a）に対するシステムソリューションを積極的に提供しています。

さらに、従来型のバック領域でも最新技術を使った領域については金融フロンティア領域の一部としてとらえ、積極的に参入していきます。

当社では、これらの事業領域を“**金融フロンティア領域**”と定義しています。

競争優位

当社は、金融フロンティア領域に対するシステムソリューションを展開しています。

この領域では、「**高度な専門ノウハウ（金融工学、業務知識など）**」と、「**最先端IT技術**」の融合が何よりも必要です。当社は、これらの要素を**全て兼ね備えた国内唯一の企業**です。この分野は、大手システム会社であっても**他社の参入は困難**です。

当社は、今後も高度な専門ノウハウを活かした付加価値の高いビジネスを継続して展開していきます。

金融フロンティア領域の将来

現在の日本の金融機関は規制緩和の遅れもあって、IT投資の大半をバック領域に振り向けており、非常に非効率です。一方、欧米では金融フロンティア領域への投資が全体の半分以上を占めるという統計が出ています。この違いが、日米欧金融機関の競争力の差異に結びついています。

今後、日本の金融機関の競争力強化のためには、IT投資が効率化し、金融フロンティア領域への投資が欧米並みに増加することが必要であると考えます。

金融フロンティア領域は、近年急速な勢いで広がっています。インターネットの発展に伴ってスタートした「ネット証券会社」などのニュービジネスが、その広がりを示しています。

近い将来、金融機関の競争力強化、規制緩和、技術革新などによる金融機関の業務の広がりが、**“金融フロンティア領域”へのIT投資を大幅に拡大**すると予想しています。

著作権を保持した「シンプレクス・ライブラリーを活用した」ビジネスモデル

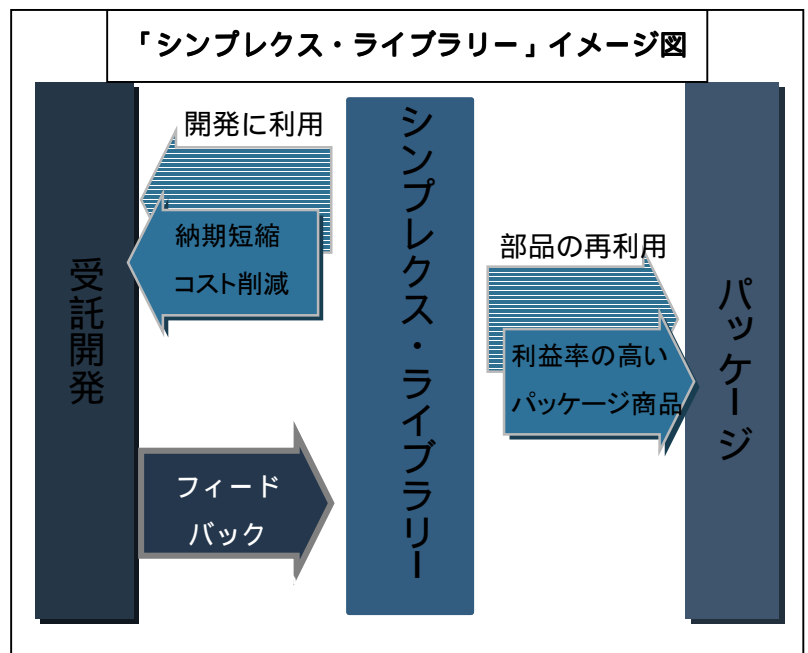
当社は、「シンプレクス・ライブラリー」を活用して、開発効率を最大化しています。「シンプレクス・ライブラリー」とは、当社がシステムの受託開発を通じて蓄積したコンポーネントの部品です。

当社は受託開発プロジェクトを手がけながら、システムの著作権を確保し、ライブラリーとして整備することに成功しています。

当社では、システムを構築する際、ライブラリーから共通コンポーネントを適宜再利用する事ができるようにシステム設計に工夫をしています。

設計の工夫と著作権の確保により、ライブラリー効果を高めることが出来、**開発効率が飛躍的に向上**しています。

「開発期間の短縮」「システムの信頼性の向上」「開発コストの削減」といったメリットを当社と顧客が共有できるWIN-WINのビジネスモデルになっています。



株式の状況（2004年3月末日現在 - 株式分割調整済み）

1. 発行済株式総数 110,695 株
 2. 株主数 3,446 名
 3. 大株主上位

氏名又は名称	所有株式数	比率	摘要
三上 芳宏	株 29,500	% 26.64%	当社前社長 現: シンプレクス・アセット・マネジメント社長
金子 英樹	9,250	8.35%	当社代表取締役社長
五十嵐 充	9,150	8.35%	当社取締役副社長
福山 啓悟	8,250	7.45%	当社執行役員
田中 健一	7,650	6.91%	当社取締役副社長
日興コーディアル・ホールディングス ・リミテッド	5,000	4.51%	取引先
四塚 利樹	3,000	2.71%	当社取締役、早稲田大学大学院教授
みずほ証券株式会社	2,580	2.33%	
株式会社シンプレクス・ホールディング	1,200	1.08%	三上氏（筆頭株主）の持ち株会社
ダイワセキュリティーズSMBC(香港)	990	0.89%	

4. 株価の推移（分割調整済み）

- 公募価格 38,400 円（2002年2月8日公募）
 初値 199,800 円（公募の 5.2 倍、2002 年上場会社中 最高上昇率）
 上場来高値 294,000 円（2004 年 4 月 1 日）
 上場来安値 31,200 円（2003 年 3 月 16 日）
 現在株価 240,000 円（2004 年 7 月 21 日現在）

* 2004 年 3 月末をもって 1 : 5 の株式分割を実施。上記株価は分割調整済み。

財務ハイライト(Financial Highlight)

<損益>

	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	05/3 (計画)
売上高	838	1,858	1,466	1,632	2,062	2,637	3,390
(前期比)	570.1%	121.8%	-21.1%	11.3%	26.4%	27.9%	28.5%
営業利益	15	553	277	326	424	555	820
(前期比)	—	3663.1%	-49.9%	17.5%	30.0%	31.3%	47.5%
経常利益	23	555	303	304	421	555	800
(前期比)	1486.5%	2304.2%	-45.4%	0.2%	38.6%	32.3%	43.9%
当期利益	12	260	169	185	231	315	431
(前期比)	2548.0%	2054.4%	-34.9%	9.5%	24.8%	36.2%	36.9%
売上高経常利益率	2.8%	29.9%	20.7%	18.6%	20.4%	21.1%	23.6%
売上高当期利益率	1.4%	14.0%	11.5%	11.4%	11.2%	12.0%	12.7%

<1株当たり指標>(分割等の遡及修正後)

	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	05/3 (計画)
1株当たり当期純利益(EPS)	149.35	2,892.29	1,692.97	1,828.92	1,933.69	2,649.65	3,895.39
1株当たり株主資本(純資産)	1,399.19	3,885.69	5,554.05	9,998.01	11,921.15	14,532.04	18,427.43

1株当たり当期純利益は、期中平均株式数を用いて算出しております。

	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	
資本金	105	125	125	268	268	269	(百万円)
株主資本	118	389	555	1,100	1,332	1,631	(百万円)
総資産	534	915	852	1,521	1,895	2,144	(百万円)
従業員数	10	32	41	55	65	91	(人)
顧客数	2	9	17	19	29	33	(社)

<収益性>

	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	
総資産当期利益率(ROA)	2.6%	35.9%	19.2%	15.6%	13.5%	15.6%	(%)
株主資本当期利益率(ROE)	12.8%	102.8%	35.8%	22.4%	19.0%	21.3%	(%)